

第3回検討会 資料	骨子案 比較表	第3回の主な委員意見
<p>IV 葛西臨海水族園のあるべき姿</p> <p>1 今後の葛西臨海水族園のあるべき姿</p> <p>1) ミッション 【葛西臨海水族園が社会に対してなすべきこと、社会に対する使命】 ○四方を海洋に囲まれた日本を代表する水族館として果たすべき使命 ①海の中の素晴らしい世界を多くの人に広める ②海洋環境問題に警鐘を鳴らし、海洋環境保全に取り組むよう、社会の機運を醸成する ○世界有数の大都市東京の水族館として果たすべき使命 ③豊かな都市生活を過ごす上で、なくてはならない施設となる ④東京に残る貴重な水環境を未来に継承する</p> <p>2) ビジョン 【葛西臨海水族園が目指すべき姿・目標】 ①誰もが、本物の生き物や海洋環境等を見て、体験できる場になる ②ひとりひとりのライフスタイルが、海洋環境保全を踏まえたものに転換されるよう促す ③海との結びつきが強い葛西や東京の歴史や文化を次世代に継承する ④来園者の五感を刺激し、活力を呼び戻す ⑤国内外からの来園者にとっての魅力となる、特別な時間を提供する ⑥海洋環境保全に貢献する ⑦東京の環境や希少な水生生物を保全する ⑧生き物が生息する環境・風景をありのままに再現する</p>	<p>IV 葛西臨海水族園の今後のあり方について</p> <p>1 葛西臨海水族園のあるべき姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の葛西臨海水族園のあり方を考える上で、次の点を重視する。 ①海の中という非日常空間がみられる人気施設・水族館の強みを発揮し、海に興味を持ち・海を好きになってもらうこと 【海と人とをつなぐ架け橋】 ②地球温暖化の現状やプラスチックゴミ問題等、海で起きている様々な出来事を知り、未来のために行動する大切さを理解してもらうこと 【持続可能な社会を実現することに貢献】 ③生き物一つひとつに個性があり、全ての生き物が直接又は間接的に支えあって生きている生物多様性の価値と現状を知ってもらうこと 【生物多様性を守る】 ④社会的に弱い立場にあるすべての人々を含め、相互に人格と個性を尊重し合う共生社会を実現する、社会包摂・アクセシブルな環境整備に取り組むこと 【あらゆる人たちにやさしい施設】 ⑤国内外のあらゆる人たちを引きつける施設になるとともに、水族館のポテンシャルを活かして葛西一帯の魅力を高めること 【魅力的な観光拠点】 <p>(1) ミッション【葛西臨海水族園の社会的責任】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海と人とのつながりを通し、海への理解を深める ・あらゆる人たちに海を届ける ・日本を代表する水族館として、水族館のトップランナーであり続ける <p>(2) ビジョン【目指すべき将来像】</p> <p>○グローバルな視点 ～日本を代表する水族館として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の恵みに感謝し、海洋環境を持続可能な形で利用できるように、私たちのライフスタイルの転換を促す ・海の魅力を多面的に伝え、多くの人たちの海への興味関心を高める ・グローバルな視点で水の惑星・地球の未来を考え、行動する人材を育てる <p>○ローカルな視点 ～世界有数の大都市東京の水族館として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然との共生に取り組み、東京湾や東京湾流域の多様な自然を未来に残す 	<p>(構成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>ミッション</u> (外形的に葛西が置かれている立場、葛西の社会的責任)、<u>ビジョン</u> (社会や人の考えをどのように誘導するか)の大きな視点)、<u>プロミス</u> (ビジョンの達成のため葛西は何をするか) <u>に沿って修正</u> <p>(全体的な視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋環境の持続可能な利用が人間の生活にどう影響するのか、というニュアンスを入れたい ・葛西にとっての海洋環境保全を示すべき ・利用者の興味の入口となる視点、海を展示するという発想が必要 ・グローバルとローカルの視点、「東京」であるということ、陸と海との関係を示しながら、水族館が何を実現するのかを明確にすべき ・「海」、「水」を入口に、人と自然との関係を改めて見直す形になってほしい ・投資に当たり賛同を得ることが必要。シティセールス上重要であるため、葛西がどのような役割を果たせば理解が得られるかをミッションの一部として掲げる必要がある <p>(修正に関する具体的ご意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミッションの柱を、①地球規模の海洋 ②人間の暮らしにつながる概念(里山、里海) としてはいかがか ・「未知の世界、海の広さ、深さを伝えていきたい」「海の生きものと自分(利用者)とのかかわりが作られる」という点を大きな目標としてはいかがか ・「五感」は「諸感覚」と言い換えるべき ・持続可能な開発目標(SDGs)は30年で終わってしまうため、SDGsを具体的目標に掲げることは避けるべき <p>(対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰に伝えるものかを明確にするため、利用者向け、働く人向けの両面を整理 <p>(表現)</p> <p>利用者に向けた書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平易な表現、心に留まるコピーやスローガンのような形にすべき ・葛西が提供できる、見えないものを見せていく等の夢やロマン、提供される価値が分かるような表現が含まれるといい。「です」「ます」調で書くべき <p>働く人に向けた書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全てのスタッフに刻まれ、モチベーションを高める内容が必要

第3回検討会 資料	骨子案 比較表	第3回の主な委員意見
<p>2 4つの機能について</p> <p>(1) ビジョンの実現に向け、葛西臨海水族園ではどのような取組をすべきか、4つの機能について整理</p> <p>※4つの機能 環境保全（種の保存） 調査・研究 教育 レクリエーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみ、癒し、学び、集う場等として、豊かな都市生活を過ごす上で、なくてはならない施設となる ・東京湾や海に関する文化・歴史を世界に発信する拠点となる <p>(3) プロミス【ビジョンを達成するための具体的方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な命を育む海を展示する ・都市生活で身近に感じにくい海にふれ、その奥深さに感動し、海を体感する場を提供する ・生き物の特徴や生態等の自然科学的な視点に止まらず、海と人とのかわりを楽しみながら学び、体験できる多様なプログラムを提供する ・展示水槽のポテンシャルを活かしつつ、空間づくり等にも配慮し、一人ひとりに心地よい時間を提供する ・私たちの生活が海に及ぼす影響を軽減するため、水族館自ら持続性を考慮した調達や活動を実践する ・海を感じ取り、諸感覚を刺激する仕掛けや演出を随所に施す ・東京圏を中心とした自然環境や希少種の保全を行う ・飼育や展示に関連する技術や研究等も公開し、様々な分野での活用に貢献する ・東京湾に回復した自然環境を、様々な組織・団体等とともに、地域の貴重な資源として育む <p>2 今後の葛西臨海水族園の機能と取組方針</p> <p>(1) 葛西臨海水族園における機能と相関イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海水族園の今後のあり方を設定したこの機会を捉え、動物園水族館が有するとされる4つの機能についても、葛西臨海水族園独自の機能・関係性として整理する。 ・葛西臨海水族園の機能とは、相互に関連しあって葛西臨海水族園という水族館を形成するもので、「調査・研究」「飼育・繁殖」「展示」「教育」「レクリエーション」「環境保全への貢献」の6つとする。 ・葛西臨海水族園の6つの機能は並列の関係ではないことから、本報告書では、機能の相関イメージを樹木の根、幹、葉、花、実に例えて整理する。 <p>(一般的な4つの機能に修正、追加したもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「種の保存」は、水族館と動物園の相違点等を踏まえ、「環境保全への貢献」と言い換える。 	<p>(機能に関するご意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの機能は全て大切だが調査研究は全てを支えるもの。この機会に葛西独自の整理をすべき ・海をめぐる情報提供、発信の拠点になってほしい ・体験が重要 ・学び、育む、発見、気づき、交流、コミュニケーション等は重要なキーワードであり、水族館はその入口にある ・レクリエーションも大きな目的。戦後の定義では「レクリエーション」は「娯楽」「レジャー」であった。近年目指しているものは、英語定義での「Re-creation」である ・レクリエーションが同列でいいかは気になる ・レクリエーションは入口ではなくて目標 ・発信する際には、「教育」ではなく「学び」とするなど、表現の工夫が必要

第3回検討会 資料	骨子案 比較表	第3回の主な委員意見
<p>1) 各機能の取組の方針 ※あるべき姿(案)に沿って並び替え</p> <p>調査・研究</p> <p>① 水族館を形成する機能(教育、レクリエーション、環境保全(種の保存))の基礎として、ミッション/ビジョンに照らして必要な調査・研究を実施する</p> <p>② 水族館での調査・研究成果は、適宜適切に社会に還元する</p> <p>③ 友好提携館、研究機関等との連携・協力により、常に高度な技術力を維持・向上する</p> <p>④ 飼育・展示等で蓄積したノウハウを提供し、研究者等の専門家の育成につなげる</p> <p>飼育</p> <p>① 生き物の適切な健康管理、栄養管理を行う</p> <p>② 生き物が生活する水環境を常に良好な状態に保つための知識・技術の向上に努める(化学等の知識、きめ細やかな水質分析等)</p> <p>③ 飼育困難生物の展示に関する技術(採集、運搬、飼育等)を継承</p>	<p>・葛西臨海水族園の「環境保全への貢献」とは、希少種等の保全に止まらず、管理運営においても地球温暖化対策や持続可能な調達等を行い、海の恵みが持続可能な形で使えるよう、持続可能な社会の実現に貢献することを指す。</p> <p>・「飼育・繁殖」は、水族館の展示を生み出し支えるものであり、一つの機能として捉えることが適当。</p> <p>・「展示」は、水族館が展示(水槽)があって成り立つ施設であり、一つの機能として捉えることが適当。</p> <p>関連イメージは、骨子案 27 ページ参照</p> <p>(2) 各機能における取組の方針</p> <p>調査・研究</p> <p>・繁殖技術や生態解明、教育、環境保全への貢献等、葛西臨海水族園を形成する全ての基盤として、ミッションやビジョン、プロミスに照らし必要な調査・研究を実施する。</p> <p>・解明されていないことが多い海洋生物の行動、繁殖等について、飼育種の採集等の機会を捉え、継続的な調査・研究を行い、飼育・繁殖や展示等に活かす。</p> <p>・調査・研究成果を様々な分野にも役立てるため、率先してノウハウを提供する。</p> <p>・常に高度な技術力を維持・向上させるため、友好提携館、研究機関等と連携・協力し、調査・研究を行う。</p> <p>・生き物の生態等を調査・研究する外部研究者に対し、葛西臨海水族園のノウハウを提供する等の支援・協力を行う。</p> <p>飼育・繁殖</p> <p>・生き物の収集は、国内外の規制等に則るとともに、自然環境への負荷に配慮した入手を徹底する。</p> <p>・環境負荷に配慮するため、可能な限り長期飼育や繁殖に取り組み、累代飼育(*15)にもつなげる。</p> <p>・動物福祉を考慮して、収容する生き物の大きさや運動能力、行動域等を踏まえて水槽を選択する他、適切な健康管理、栄養管理を行なうとともに、生き物の感染等を予防する検疫機能や、病気への迅速な対応が図れる体制(獣医の配置等)を整える。</p> <p>・生き物が生活する水中環境を常に良好な状態に保つため、きめ細やかな水質管理や水処理に関する知識・技術の向上に努める。</p> <p>・飼育困難生物の展示に係る技術(採集、運搬、飼育等)を継承する。</p>	<p>(関係性に関するご意見)</p> <p>・ミッションやビジョンに照らして、機能にとらわれず、それぞれの関係性を構造図や相互関係で表すことが好ましい→事務局にて案作成</p> <p>・提供価値を考えたとき、飼育、展示、調査、研究は全て独立した大切なものである</p> <p>・教育は下敷きになっている</p> <p>・教育的な部分に帰するレクリエーションが大切</p> <p>・飼育に限らず、教育に資する調査、研究も必要で、その関係性の整理が必要</p> <p>・ミッション/ビジョンと機能の構造図、展示は一体のものとしてまとめられており、それを支えるのが飼育の技術である</p> <p>(調査研究)</p> <p>・調査研究を重視し、働いている人たちが研究者としてのキャリア形成にもつながるような位置づけになるといい</p> <p>・調査研究の分野をもっと広げるといい。水族の飼育管理に関する研究だけでなく、社会的な役割に関する調査研究(癒し、医療面、伝え方、社会を変える人間の育て方等)も行っていくことが入るといい。全ての可能性の基礎となる調査研究を進める形が必要</p> <p>・環境に対する科学的研究の重要性を理解してもらう必要</p>

第3回検討会 資料	骨子案 比較表	第3回の主な委員意見
<p>教育</p> <p>① 生態系や海中風景を水槽内に再現し、観察の場を提供する</p> <p>② 実体験等、水族館ならではの幅広い学習機会を提供する</p> <p>③ 来園者の興味を引く多様な視点から海洋環境と日常生活とのつながりを解説する</p> <p>④ 専門知識を有した経験豊富なスタッフにより、洗練された教育プログラムを実施する</p> <p>⑤ 多様な組織、機関、団体等との連携・協働を広げ、教育に係る取組を充実させる</p> <p>⑥ 国内外の動向や最先端の研究等をプログラムや展示に反映し、時流にあった情報を伝える</p> <p>⑦ 移動水族館で、誰にでも海に触れ合う機会を届ける</p>	<p>・飼育する生き物は、水族館のミッション等を踏まえ選定し、適正な種数管理を行う。</p> <p>・生き物の繁殖環境を整えるとともに、繁殖や保全の過程を積極的に公開し、命の営みへの理解を深める。</p> <p>展示</p> <p>・あらゆる人たちの興味や関心と呼び、楽しみ、癒し、感動等を生む展示を行う。</p> <p>・魚類、無脊椎動物、海藻・海草、両生類、鳥類等、水族館で展示する生き物は実物を原則とする。</p> <p>・生き物の生息域の生態系、自然環境等の再現に努め、リアリティを追求した展示とする。</p> <p>・ICT、光、音・音響等を駆使し、生き物や生息環境の多様性、美しさ、臨場感等が感じられる展示とする。</p> <p>・海が身近に感じられるように、疑似体験ができる仕掛け等を工夫する必要がある。</p> <p>・利用者の気づき、興味・関心と呼ぶように、生き物や生息環境だけでなく、その生き物に関連する人の営みや文化等も伝える展示とする。</p> <p>・あらゆる人たちが参加、体験、学習ができるように、必要に応じて映像や音声、標本、模型等も展示に活用する。</p> <p>・生き物を見る視点や展示が持つ多様な価値を伝えるため、適切な説明手法を選定し、教育プログラムへの活用につなげる。</p> <p>教育</p> <p>・生き物の特徴や生息環境とともに、海洋環境について利用者への理解を深める教育プログラムを実施する。</p> <p>・参加や体験ができるプログラムにより、温度や感触、におい等の諸感覚を刺激する幅広い学びの機会を提供する。</p> <p>・日々変化する水槽内の環境や生き物の状態を、利用者の年齢や興味等に添って解説をする双方向コミュニケーションを基本とする。</p> <p>・様々な組織・団体等との連携・協働を広げ、教育に係る取組を充実させる。</p> <p>・国内外の動向や最先端の研究等をプログラムや展示に反映するため、専門知識を有した経験豊かなスタッフが、常に新しい情報を伝える。</p> <p>・移動水族館等、誰もが海に触れ合えるような機会を幅広く提供する。</p> <p>・水族館の仕事や役割を知る実地研修等の受け入れ環境を整えるとともに、研究者等の専門家の支援や育成にも取り組むべき。</p>	<p>(展示)</p> <p>・飼育展示は水族館特有の調査研究で、重要なことである</p> <p>・展示は施設のメッセージを発信する手段と理解している</p> <p>・展示は手段と言えそうだが、博物館法では、資料の収集・保存・展示と言われる。本当に手段か疑問がある。水族館が絶対捨てられないのは実物の展示であり、映像や様々な情報に依存していく中で、博物館は実物を見せて続けていく場であるという覚悟を示す必要がある</p> <p>・役所的な硬い施設ではなく、家族で何も考えずに楽しめる部分も必要</p> <p>・海を知らない子供たちが、何も考えずに「海ってすごい」と体感できないといけない。ロマンの入口は多様で、それぞれの感動を味わえるように、水槽に行くまでの演出も考えるべきである</p> <p>・展示のキーワードとして「参加」「体験」が必要</p> <p>(教育)</p> <p>・教育が、上からの押し付けのイメージがあるため、エデュケーション、学び等への表現変更も考えられるが、近年、自発的な学びも含んだ概念と変わりつつあるため、当面「教育」のままでよい</p> <p>・教育プログラムに関しては、「洗練」より、柔軟な／先進的な、といったニュアンスが合う。また、興味深い、どこにもない、ここでしか観られない、という表現がよい</p> <p>・知的な体験より、刺激を与えるという表現がよい</p> <p>・社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）の考え方が出るとよい</p> <p>移動水族館「等」で、といった形で、視覚障害や聴覚障害、認知症等、利用機会に恵まれなかった方々に向けたプログラムやシステムのへの機会を提供していくという概念がもっと入るといい</p> <p>※社会包摂：社会的に弱い立場にある人々をも含め、市民ひとりひとりと、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会（地域社会）の一員として取り込み、支え合う考え方</p>

○第3回資料と骨子案との比較表及び第3回の主な委員意見

第3回検討会 資料	骨子案 比較表	第3回の主な委員意見
<p>レクリエーション</p> <p>① 幅広い世代が、誰でも楽しめる空間とする</p> <p>② 癒され、憩い、思い思いの時間が過ごせる空間とする</p> <p>③ 生き物が備える魅力を活かし、知的な体験、新たな発見、感動が味わえる場とする</p> <p>④ 国内外からの来園者の多様なニーズに対応し、水族館でしか味わえない体験を提供する</p> <p>環境保全（種の保存）</p> <p>① 希少種等の保全に関する幅広い取組を行いつつ、希少種が生息する地域の保全（生息域内保全）にも引き続き貢献する</p> <p>② 飼育・展示等で蓄積したノウハウを広く提供し、環境保全に寄与する拠点を目指す</p> <p>③ 展示する生き物は、環境に負荷をかけず採集・展示することを基本とし、繁殖に努める</p> <p>2）葛西臨海水族園で重視すべき機能、力点の置き方</p> <p>① 4つの機能の中で、最も重視すべき機能は教育</p> <p>② レクリエーションは教育に準じた比重がある</p> <p>③ 環境保全（種の保存）については、生息域外保全等を進める動物園と違い、比重としては小さい</p> <p>④ 水族館は、教育という取組で、環境保全（種の保存）に貢献する</p> <p>⑤ 調査・研究は全てを支える機能で、その多くは表にはみえにくい、なくてはならない重要な機能と理解</p>	<p>レクリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段体験できない、水の中という非日常空間での癒しの機会を提供する。 ・ 幅広い世代が、誰でも楽しめる空間づくりを行う。 ・ 思い思いの時間が過ごせる空間を確保する。 ・ 生き物が備える魅力を活かし、新たな発見、体験、感動が味わえる場とする。 ・ 国内外からの利用者の多様なニーズに対応し、水族館でしか味わえない体験を提供する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「レクリエーション」を、「re（再び）・creation（創造する）」という言葉から、「回復」「再創造」として定義づける旨の注釈を追加</p> </div> <p>環境保全への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境保全への貢献が水族館の重要な役割であることを自覚し、展示を活用した教育やレクリエーションを通じて、普及啓発に取り組む。 ・ 希少種等の保全に関する幅広い取組を行いつつ、希少種が生息する地域の保全（生息域内保全）に貢献する。 ・ 飼育・展示等で蓄積したノウハウを広く提供し、環境保全に寄与する拠点を目指す。 ・ 持続可能な社会を目指して自ら取り組むとともに、葛西臨海水族園のミッション、ビジョン、プロミスに共感する様々な組織・団体等との連携を行う。 <p>（「葛西臨海水族園における機能と相関イメージ」に再構成）</p>	

第3回検討会 資料	骨子案 比較表	第3回の主な委員意見
<p>3 展示・飼育の考え方</p> <p>(1) 展示の計画を考えるキーワード</p> <p><ミッション/ビジョンからピックアップ></p> <p>海洋環境 / 生物多様性 / 生態系 / つながり / 学び / 東京 / 癒し / 歴史・文化</p> <p><集客の視点></p> <p>アイドル性・スター性 / 独自性</p> <p>※委員提案の展示キーワードの分類</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(基本キーワード)</p> <p>海洋環境 / 生物多様性 / 生態系 / 学び</p> <p>海と人とのつながり</p> <p>(個別キーワード)</p> <p>東京 / 歴史・文化 / 創造性(癒し) / 独自性</p> <p>スター性・アイドル性</p> </div>	<p>3 展示基本構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示は、葛西臨海水族園の独自性を発揮するとともに、メッセージを表現する機能で、その取組の方針は骨子案 28 ページの通りである。 ・葛西臨海水族園が、海への興味関心の入口としてあらゆる人たちを引きつけるには、どのような展示が考えられるのか、展示水槽を中心に整理する。 <p>(1) 展示基本構想の前提</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛西を川(淡水)と海(海水)の結節点とし、東京湾に流れ込む河川が、東京湾から大洋へと広がってゆく水のつながりから展示基本構想を考える。 ・展示の共通の考え方として、「海洋環境」「生物多様性」「生態系」「海と人とのつながり」を伝え、「学び」につながるように計画する。 ・さらに、展示の一部には、「東京」「歴史・文化」「創造性・癒し」の視点も取り入れる。 ・将来に亘り親しまれ持続する施設となるには、集客性も重要な視点で、「独自性」や「スター性・アイドル性」も考慮する。 ・展示は、水族館であることから、まず水槽に着目して検討したが、生き物に関連する人の営みや文化等を伝える展示とその展示スペース等についても、今後、検討することが必要。 <p>(2) 展示水槽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示水槽は、これまでの葛西臨海水族園の実績・強みを加味した上で、適切な生態系を選定し、構成する。 ・展示水槽の構成の一例を骨子案 32 ページに掲載。 ・骨子案 33、34 ページでは、葛西臨海水族園の代表的な展示水槽の例を掲載。 ・本報告書で提案する展示水槽は、生息地の環境を伝える「生態展示」や、生き物の自然の生態を引き出すことを目的とする「行動展示」を目指すものとする。 ・そのためには、一定の水量が不可欠となるため、運営等のコストを含め、詳細な検討を重ねた上で、具体化する必要がある。 ・今回示した展示水槽の構成及び代表的な展示水槽の例は、詳細な検討を進めるための基礎としてもらいたい。 ・詳細な検討の際は、持続可能な社会に向けどのような行動を示すべきかを念頭に置きつつ、葛西臨海水族園の土地条件や運営経費、飼育現場の目線等の諸条件も踏まえる必要がある。 <p>①展示水槽の構成 ※骨子案 32 ページ</p> <p>②代表的な展示水槽の例(大洋) ※骨子案 33 ページ</p> <p>③代表的な展示水槽の例(サンゴ礁) ※骨子案 34 ページ</p> <p>④展示水槽をつくるにあたり考慮すべきこと ※骨子案 35 ページ</p>	<p>(展示計画等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミッション、ビジョンを踏まえたものにする必要 ・種を見せるか、つながりを見せるかの議論が必要。目の前にいる生き物から、どういうつながりを見せるか。結果的にできる展示は現在のものと変わらなくても、伝えるメッセージが変わってくる ・葛西に不足していることは、(足りないこと自体)これまで妥当だったのかも考えるべきである ・深海等、今までやってきたところを強化、整理してはどうか ・教育の観点から、東京の溪流、田んぼ、水辺の展示が分かりやすい ・島しょの海が重要 ・他の水族館との差別化が必要 ・集客がすべてではないが、集客も考えて展示を考えなければならない ・見せるべきものは「環境」。その手段として「参加」。その結果が「学び」「レクリエーション」「癒し」等になる ・興味→気づき→理解→行動につながるような展示を考える必要 ・単に水槽を並べるだけでなく、展示に起承転結があると楽しめる ・展示種にかぎらず、空間を使った展示効果でアイドル性やスター性を発揮することもある(金沢の21世紀美術館が一例) ・展示と解説の視点はセットで考えられるべき ・みる視点を提供することが大切 <ul style="list-style-type: none"> ・展示に関する全体のコンセプトが必要。(一般的な言葉で表現。「海を知り尽くす」「海の全体を知る」等)そのため、どういうことを提示すべきか、どのように実現するか、となる ・水族館にもともと興味を持たない方もアクセスできる新しいコンセプトが必要

○第3回資料と骨子案との比較表及び第3回の主な委員意見

第3回検討会 資料	骨子案 比較表	第3回の主な委員意見
<p>4 運営に関する方針</p> <p>ターゲットを踏まえたサービスの提供方法</p> <p>① 行ってみたいくなる、何度も訪れたいくなるような展示やプログラム等の開発</p> <p>② ターゲットごとに選択できる案内・解説（ICTの活用等）</p> <p>③ 季節や企画に対応したメニュー・グッズ等の提供（レストラン・売店等）</p> <p>ファン（観光客）の増やし方</p> <p>① 夜間の生き物の暮らしが観られる機会等を提供</p> <p>② インバウンド誘致につながる、水族館ならではの体験を提供</p> <p>③ 国内外で親しみやすい名称、シンボルカラー、シンボルマーク等の検討</p> <p>現在：日本語表記は葛西臨海水族園、英語表記は Tokyo Sea Life Park</p> <p>④ 水族館に長く滞在できるように、教育やレクリエーション機能を工夫</p> <p>⑤ 水族館周囲の資源も活かした、地域全体の魅力を発信</p> <p>広報・連携のしかた</p> <p>① ホームページや案内・解説の多言語化対応</p> <p>② 水族館のミッション／ビジョンに共感する企業との連携を深める</p> <p>③ 葛西臨海公園のランドマークとして一層親しまれるための連携を検討</p>	<p>4 運営に関する方針</p> <p>（1）ファンの増やし方・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者は子どもから大人まで幅広く捉える一方、広報はターゲットごとに戦略的に対応する。 ・国内外で親しみやすい名称、シンボルカラー、シンボルマーク等を検討すべき。 <p>現在：日本語表記は葛西臨海水族園、英語表記は Tokyo Sea Life Park</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや案内解説等の多言語化対応等を進めるほか、アクセシブルな環境整備に取り組む。 ・葛西臨海水族園固有の友の会を組織し、特別なサービスを提供する等、長く親んでもらうファンの確保やサービスを検討すべき。 ・生き物の新たな魅力を発掘したり、親しみの持てる解説ができるスタッフを育成する等、思わず行ってみたいくなるサービスを工夫すべき。 ・昼夜問わず、水族館でしかできない体験を提供し、インバウンド誘致にもつなげる。 ・季節や企画展等に対応した飲食メニューやグッズ等の開発を進める。 ・葛西臨海水族園に近接する自然等の資源をフィールドとして活用するなど、葛西エリアで終日楽しめる水族館の強みを生かした取組や企画を充実すべき。 ・新たな視点で利活用を行い、異なる側面から葛西臨海水族園の魅力を伝える工夫も必要。 <p>（2）情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海水族園で展示している生き物の現地の状況、飼育動画の配信、撮影スポットの紹介等、足を運んでみたいくなるような情報発信を充実させる必要。 ・葛西臨海水族園の企画や情報は ICT を活用して発信する等、適切な媒体を選定する。 ・観光等でも利用しやすいように、利用目的や滞在時間に合わせた観覧のモデルルート等を発信する。 <p>（3）連携のしかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海水族園のミッション、ビジョン、プロミスに共感する様々な組織・団体等との連携を積極的に進める必要。 ・葛西臨海水族園のポテンシャルを多方面で活かすための方策を工夫すべき。 ・展示水槽で再現した生態系の現地の状況等をリアルタイムで受信できるネットワークを構築する等、施設の枠を超えた様々な連携を検討すべき。 	<p>（構成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ファンの増やし方」「広報・連携のしかた」を、「ファンの増やし方・広報」「連携のしかた」に修正 <p>※構成は全体的に修正</p> <p>（ファンの増やし方・広報）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報はターゲット設定が必須 ・集客の仕組みを構築する必要 ・名称変更の良い機会である。「臨海」は固すぎる。現在の英語名の TOKYO SEA LIFE PARK は良い名前、そのまま使用してもよいのではないかと（その他、東京水族館という提案あり） ・多言語化が必要だが人の手配は大変。モバイルによる多言語化等、機材の活用も考える必要 ・ファンの増やし方としては、水族館周囲だけでなく、東京や世界中の海の資源も活かせる ・エコツーリズムやアウトドアが魅力。葛西の今の環境がとても重要で、まわりを利用した呼び込み方が必要 ・地元を受け入れられる施設であることが大切 <p>（情報の発信）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスの提供方法として、展示、プログラム開発ではなくネットツールの活用等、外部への発信方法を記載すべき ・テーマにあった観覧ルートがあるとよい <p>（連携のしかた）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業連携は CSR が重視されることを念頭に置くべき ・葛西は、集客力を高めるために、地域の振興、活性化や周りとのかかわりを考えながら運営することが必要。特にまちづくりとのかかわり、1つの部局だけでなく、広い部局との連携を考えた上で具体的に進めるべき ・環境省のレンジャーとのコラボレーションや、広域自治体との連携ができるとうい

○第3回資料と骨子案との比較表及び第3回の主な委員意見

第3回検討会 資料	骨子案 比較表	第3回の主な委員意見
<p>経営の観点</p> <p>① 公益性を確保しつつ、新たなサービス（有料サービス）の実施等を検討</p> <p>② 水族館の運営経費削減についても検討</p> <p>③ 適切な入園料金の考え方</p> <p>④ 運営者の工夫により得た収益は、運営者の自由裁量で使える仕組みを検討</p> <p>⑤ 飼育展示や教育普及等に係るノウハウの継承、職員の育成</p> <p>⑥ ボランティアが活躍しやすく、やりがいを持てるように、活動内容を検討すべき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海水族園周辺の施設とともに、葛西エリアで海を感じながら一日過ごすための連携を検討すべき。 ・東京や地域の振興、活性化のため、観光の視点から、都内の他の施設との連携を進めるべき。 <p>（４）経営の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営経費削減に向け、引き続き様々な取組を実施する。 ・公益性を確保しつつ、新たなサービス（有料サービス）の実施等についても検討すべき。 ・施設の持続可能性を考慮し、利用者サービスに応じた入園料金を設定することが適切。 ・運営者の工夫により得た収益は、運営者の自由裁量で使える仕組みがあるべき。 ・魅力的な施設であり続けるため、飼育展示や教育普及等に係るノウハウの継承や適切な人材配置は必要。 ・サービスの質の向上につながるように、ボランティアがやりがいを持ち長期的に取り組める仕組みを整備すべき ・施設や事業の評価・点検にあたり、集客等の経済効果のほか、ミッション、ビジョン、プロミスの難易度や達成状況等を適正に判断すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地とリアルタイムでつながる仕組み（現地写真の送信、現地情報の提供等）の構築 ・葛西は、集客力を高めるために、地域の振興、活性化や周りとのかかわりを考えながら運営することが必要。特にまちづくりとのかかわり、1つの部局だけでなく、広い部局との連携を考えた上で具体的に進めるべき（再掲） ・東京都内の他の施設との連携や、プログラム開発などを行い、観光上の活用ができるといい。 <p>（経営）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトが料金体系にもつながるべき ・価格に見合う価値提供が必要。経営的な面、施設の持続可能性の面からも、展示内容が十分な内容なら値上げも必要。都民とその他の料金設定の違い、観光と教育とで料金を分けるなど、目的別の入園料設定があってもいい ・小中学生をどうするかが大きな問題。大人を高額設定するが中学生以下は無料、都内在住や都内の学校は無料等とすると受け入れやすい。学校の教育現場が来られるような環境を整えることは重要 ・レンジャーやインタープリターの話は大切。人材をきちんと配置し、解説のチャンネルをたくさん持つことが必要 ・来園者目線でストーリーを作れる人がいて、それを現場で上手に使う人がいる、という体制が不可欠。そのために、コンテンツ作りができる人を核に、ボランティアをうまく使っていくことが大切。ボランティアはお手伝いではない ・園自体のコンテンツで発信する体制づくりが必要。ペイボランティアもあり ・ボランティアを有償にすることも検討されるべき ・多様な人材が関わってくれるような組織体づくりが必要 ・サイエンスコミュニケーターを育成する視点が必要。片手間でない体制づくりが必要 ・経済効果だけでなく、内容でも効果を検証する必要

○第3回資料と骨子案との比較表及び第3回の主な委員意見

第3回検討会 資料	骨子案 比較表	第3回の主な委員意見
<p>5 求められる施設性能 誰もが使いやすく・魅力的な施設</p> <p>① バリアフリー対策は都の責務として早急に対応 ② エントランス、展示室、廊下、休憩スペース、レストラン等が有機的につながった空間づくり ③ 飼育等の裏側（バックヤード）も来園者が観やすいように計画 ④ 団体の子どもたちが使いやすい休憩所や休憩スペース ⑤ 校外学習等の団体の子どもたちが、1～2学年みんなで活動できる空間 ⑥ どこにいても海を感じられるようなデザイン・演出（ICT、光、音・音響等） ⑦ 多言語化は、主役である展示の魅力を損なうことがないように対応</p> <p>水族館機能等の発揮に必要な性能</p> <p>① 幅広い世代が楽しめるような施設性能を装備（水槽の作り方、解説方法、レストラン形態等を工夫） ② 混雑緩和につながるような動線計画（ボトルネックの廃止等） ③ 施設性能は、来園者、管理者、生き物のそれぞれの目線から計画（観覧動線と管理動線は分離） ④ 様々なニーズに対応できるフレキシブルな空間（レクチャールーム、休憩所等） ⑤ 調査研究を目的とした実験、観察に要する施設・設備の導入 ⑥ 水族館の心臓部である水処理設備と予備水槽を適切に備える必要</p> <p>メンテナンス・環境負荷の軽減</p> <p>① 施設の持続性を前提とした計画（主要設備の換装、工事監理動線等の考慮、保守点検スペース、パビリオン形式等） ② 飼育作業を行うキーパースペース等の適正規模の確保 ③ 中長期修繕計画の作成 ④ 再生可能エネルギーの導入やLEDの採用等により、環境負荷を軽減</p>	<p>5 求められる施設性能 （1）誰もが使いやすく魅力的な施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる人たちが使いやすい施設であるため、バリアフリーへの対応とともに、アクセシビリティを確保することが不可欠。 ・安全安心を認識できる防災対策や実施体制を講じるべき。 ・エントランス、展示室、廊下、休憩スペース、レストラン等が利用想定等を踏まえ、適切な規模を確保し、それらが有機的につながった空間づくりをすべき。 ・レストラン等のサービス施設でも海を感じられるように、配置等を工夫するべき。 ・利用者が、飼育等の裏側（バックヤード）も観やすいような計画とすべき。 ・団体の子どもたちが使いやすい休憩所や休憩スペース、校外学習等で1～2学年みんなで活動できる空間等を確保する必要。 ・多言語化対応は、主役である展示の魅力を損なうことがないように配慮すべき。 <p>（2）水族館機能等の発揮に必要な性能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い世代が楽しみ、学べるように、現在の展示を発展させるとともに、適切な施設規模を備える。 ・自由に選べる観覧ルートを設ける等、混雑緩和につながる動線計画とすべき。 ・利用者、管理者、生き物のそれぞれの目線で、配置やデザイン等を計画すべき。 ・一定規模が求められるレクチャールームや休憩所等は、様々なニーズに対応しやすいフレキシブルな計画とすべき。 ・調査研究を目的とする実験や観察がしやすい設備の導入、施設配置等を検討すべき。 ・水族館の心臓部である水処理設備並びに検疫や繁殖、治療等が可能な予備水槽を適切に備える必要がある。 <p>（3）メンテナンス性能の確保及び環境負荷の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要設備の換装や保守点検スペース等のメンテナンス性能を確保するほか、改修しやすいパビリオン形式の配置等、施設の持続性を前提とした計画であるべき。 ・飼育作業を行うキーパースペース等の適正規模を確保する必要。 ・再生可能エネルギーの導入や展示における自然光の活用、エコロジカルな素材の採用等、計画・設計・施工の全ての段階で環境負荷の軽減策を講じる。 	<p>（誰もが使いやすく・魅力的な施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー → アクセシビリティやユニバーサルデザイン とすべき ・障害者にとっても、健常者にとってもアクセシブルが大切 ・危機管理対応がしっかり出来ていることの可視化が重要 ・水槽を観ながら食事ができるレストランがあるとよい <p>（メンテナンス・環境負荷の軽減）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然にやさしいエコなもの、というニュアンスがほしい ・野生の魚類を搬入する場合でも、認証を取っている会社から購入するなど、環境負荷の軽減は徹底すべきである

○第3回資料と骨子案との比較表及び第3回の主な委員意見

第3回検討会 資料	骨子案 比較表	第3回の主な委員意見
<p>6 その他 周辺施設等との連携 ① 水族館までのアクセスやアプローチを検討すべき （駐車場からのアクセス、最寄駅からのアプローチ、海側（水上バス）からのアプローチ等） ② 水族館周辺の施設とともに、葛西で一日楽しめるような連携を検討すべき （フィールドトリップのような自然体験の拠点機能等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レストランの食材調達、飼育生物の搬入等の運営に際しても、環境への配慮を徹底する。 ・施設の長寿命化を図る観点から、中長期修繕計画を作成する必要がある。 <p>6 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場や最寄駅、海側等から、葛西臨海水族園までのアクセシビリティを確保すべき。 ・葛西臨海水族園と合わせて公園のリニューアルを行い、利用者の気持ちが高められるよう、海が感じられるデザインや開放感のあるランドスケープを設らえる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー → アクセシビリティやユニバーサルデザイン とすべき（再掲） ・障害者にとっても、健常者にとってもアクセシブルが大切（再掲） ・駐車場からのアクセス改善が必要 ・海からのアクセスを整備すべき。東京の中心に遊びに来た人を海の体験に引き込む工夫をしてはどうか ・水族園のコンセプトに合わせて、公園全体もリニューアルすべき。公園が水族館のイントロダクションとなり、アフターで遊べる関係が必要